

令和6年度 学生チャレンジプロジェクト 成果報告書

事業区分	①、④、⑥
プロジェクト名	梶小・梶山こども園食育サポート
代 表 者 (所属・学年・氏名)	生活科学部管理栄養学科・4年・水野優衣
責任教員名 (役職・氏名)	講師・山田 紀子
予算総額	8万 5 千円

1. プロジェクトメンバー (氏名・学部・学年・役割)

氏名	所属・学年	役割分担
池田沙穂	管理栄養学科 4年	梶山女学園大学附属梶山こども園 梶山女学園大学附属小学校
堀江真由	管理栄養学科 4年	梶山女学園大学附属梶山こども園 梶山女学園大学附属小学校
松前杏音	管理栄養学科 4年	梶山女学園大学附属梶山こども園 梶山女学園大学附属小学校
水野優衣	管理栄養学科 4年	梶山女学園大学附属梶山こども園 梶山女学園大学附属小学校
安達舞	管理栄養学科 4年	梶山女学園大学附属小学校
石神美緒	管理栄養学科 4年	梶山女学園大学附属小学校
海老根史宝	管理栄養学科 4年	梶山女学園大学附属小学校
奥村麻衣	管理栄養学科 4年	梶山女学園大学附属小学校
加藤美来	管理栄養学科 4年	梶山女学園大学附属小学校
村瀬美乃里	管理栄養学科 4年	梶山女学園大学附属小学校
遠藤瑞希	管理栄養学科 3年	梶山女学園大学附属小学校(副代表)
河合彩花	管理栄養学科 3年	梶山女学園大学附属小学校(代表)
石田桃音	管理栄養学科 3年	梶山女学園大学附属梶山こども園
神谷莉子	管理栄養学科 3年	梶山女学園大学附属梶山こども園(代表)
久野菜々美	管理栄養学科 3年	梶山女学園大学附属梶山こども園
福永彩加	管理栄養学科 3年	梶山女学園大学附属梶山こども園
山岸日奈子	管理栄養学科 3年	梶山女学園大学附属梶山こども園(副代表)
山田梨世	管理栄養学科 3年	梶山女学園大学附属梶山こども園
鈴置結衣菜	管理栄養学科 2年	梶山女学園大学附属小学校
鈴木紗奈	管理栄養学科 2年	梶山女学園大学附属小学校
出羽七帆	管理栄養学科 2年	梶山女学園大学附属小学校
寺沢瑞希	管理栄養学科 2年	梶山女学園大学附属小学校
服部佳保里	管理栄養学科 2年	梶山女学園大学附属小学校
原田滢	管理栄養学科 2年	梶山女学園大学附属小学校
水谷真碧	管理栄養学科 2年	梶山女学園大学附属小学校
矢田早和佳	管理栄養学科 2年	梶山女学園大学附属小学校
山田花菜	管理栄養学科 2年	梶山女学園大学附属小学校
大橋ハルナ	管理栄養学科 1年	梶山女学園大学附属小学校
尾関結音	管理栄養学科 1年	梶山女学園大学附属小学校
川村來夢	管理栄養学科 1年	梶山女学園大学附属小学校
五太子茉央	管理栄養学科 1年	梶山女学園大学附属小学校
安藤瑞姫	管理栄養学科 2年	梶山女学園大学附属梶山こども園
伊藤千恵	管理栄養学科 2年	梶山女学園大学附属梶山こども園

伊藤優里	管理栄養学科	2年	梶山女学園大学附属梶山こども園
上田麻未	管理栄養学科	1年	梶山女学園大学附属梶山こども園
祖父江由佳	管理栄養学科	1年	梶山女学園大学附属梶山こども園
武井綾菜	管理栄養学科	1年	梶山女学園大学附属梶山こども園
塚田佳世	管理栄養学科	1年	梶山女学園大学附属梶山こども園
中村心優	管理栄養学科	1年	梶山女学園大学附属梶山こども園

2. プロジェクト開始の背景・経緯や目的等

この活動は、こども園、小学校ともに 2021 年度から始動しており、子ども達が食に関する知識や行動を楽しみながら学ぶことで、食に興味や関心を持ち、食べる意欲を育むことを目的としています。昨年度は、食育媒体の作成、掲示、食育イベントの開催を行いました。そして今年度は食育媒体の作成、掲示、食育イベントの開催、配膳の補助を行い、食知識を身につけるだけでなく、実際に食に触れてもらう機会をさらに増やしました。また、保護者向けのプリントも作成し、家庭においても食育活動が推進されるよう取り組みました。この活動を通して成長や発達が著しい子どもたちが食に興味や関心を持ち、食の体験を広げることで食べる意欲を育むことを目的としました。

3. プロジェクトの成果及び達成状況

活動は管理栄養学科 1～4 年生の有志が参加しており、年間通してこども園、小学校での食育を実施しました。こども園、小学校とも、計画の一つとして 2 か月に 1 回食育媒体の掲示物を企画、作成しました。こども園では、「ごはんのちから」「さかなのちから」「食べるときのお約束」「よくかんで食べよう」「鬼まんじゅうについて知ろう」を掲示しました。掲示物は、めくったり写真を活用したりして、子どもたちが興味を持つような仕掛けにしました。掲示の際に園児が手伝うこともあり（図 1）、食に関する興味を自然と高められる機会となりました。

小学校では、「旬の野菜」「各国の料理」をテーマに作成した媒体を掲示しました。掲示媒体は小学生が楽しめるようにめくる仕掛けや小学生自身が回答を当てはめることができるような形式など対象の学年に合わせた仕掛けを用いて作成しました。また、媒体掲示では小学生から直接感想を聞くことができる機会があり、小学生の意見をもとに媒体を修正し小学生が食育の媒体に興味関心を自然と持つてもらうことができました。

また、直接子ども達と食が触れ合える場を提供するために、園児・児童参加型のイベントを行いました。こども園では、8 月にピザクッキング、2 月に鬼まんじゅうクッキングを行いました。実際に食材を切ったり盛り付けたりし、完成まで一貫して行うことによって楽しみながら食に関心を持つことができました。さらにこども園では、配膳の補助を行い、活動を通して園児とコミュニケーションを図る機会となりました。

小学校では、8 月にフルーツポンチ食育イベントを開催し、掲示媒体のテーマである旬の野菜に沿った内容を行うことでテーマについてより児童の理解を深めることができました。また、食育の観点だけでなく他学年の児童同士でグループを設けたことにより児童の間での交流を行う機会を設けることができ、児童同士の関係を深める機会となりました。

これらの企画にあたっては、全体の情報共有としてミーティングを行い、こども園、小学校間についても相互報告を行いました。



図 1 こども園で園児が掲示を手伝ってくれている様子

4. 大学や地域・社会へ与えた影響

この活動を通して、私たち学生側は、幼児期から学童期への食育に関する適切な栄養教育の方法を体験できることが机上だけでなく学びに繋がりました。実際、これまでの活動の中で、園児や児童にどの程度の知識があるのか、その上で学びになる興味を持ってくれるような媒体とは何かを先生方からのご指摘も含め観察することで新たな発見を見出してきました。園児の興味を引くこと、園児の知識となること、園児が繰り返し遊ぶ頑強さが必要なことを学びました。

また、こども園では直接園児と関われるイベントを通して、より身近に園児の反応を感じられ、短時間では分からない園児の特徴と合わせて食への関心の高さも実感できました。さらに小学校においても実際に児童の反応を見ながら媒体や食育イベントを行うことで、児童にとって理解しやすい内容や言葉遣いについて学ぶことができ、児童の食に関する関心度を実感することができました。このようなことから、学生にとっては将来管理栄養士として食と健康に関わる専門家としての意識を持つキャリア形成になり、園児や児童の食への興味や関心を高め、健康な成長をサポートできることが期待されます。実際、こども園でのみ活動していた学生が、活動を通して食育に興味を持ち、小学校の活動にも参加するようになりました。このことから幅広い年齢層に関わることができました。

管理栄養学科では3年生に学外で実施する臨地実習がありますが、1・2年生にとってはプレ実習にもなり得ます。また、3・4年生では将来を考える一助となり、より対象者に寄り添って考える機会を得ることができました。3年生が小学校へ実習に行った際は、「子どもとの関わりに慣れている」と言われるなど子どもとの関係性を築く力が身につきました。

また、絵本の読み聞かせやエプロンシアターなど学内の講義では経験しなかった教育方法に初めて挑戦しました。今まで試したことがない栄養教育に挑戦することで、子どもの反応や興味を知り、多様な教育方法を選択することができるようになりました。

このように栄養学について学びながら子どもと積極的に、継続的に関わる活動は総合学園である本学にしかできないことであり、相互に食と健康を学ぶことができました。

5. 今後の課題

本活動では、子どもたちが食に興味や関心を持ち、食の体験を広げることで食べる意欲を育むことを目的としました。また、園児や児童が食への関心を高める上で、保護者との連携は欠かせません。そこで活動においての子どもの姿を伝えるとともに、ご家庭での様子や要望も伺いながら子どもと学生がともに成長し合う活動を目指します。具体的には、保護者プリントやアンケートの作成を行い、子ども周辺の食育活動を推進していきたいです。

また総合学園である本学の特徴である、こども園と小学校の連携が弱かったと感じています。小学校入学により生活習慣の変化による朝食欠食や給食の開始など、食生活の変化や課題が増えていきます。これらの課題の対策に貢献できるようライフステージの変化における食育も意識した活動としていきたいです。具体的には、こども園と小学校で一緒にクッキング教室や食育イベントなどを開催することを考えています。